

特集 「2016年度人工知能学会全国大会 (第30回)」

## 特集「2016年度人工知能学会全国大会 (第30回)」にあたって

平松 薫 (実行委員長, NTT), 有村 博紀 (プログラム委員長, 北海道大学),  
浦本 直彦 (大会委員長, 日本アイ・ピー・エム (株))

2016年6月6日(月)～9日(木)までの4日間、福岡県北九州市にて2016年度人工知能学会全国大会(第30回)を開催した。今年も例年にならい、参加されなかった会員のため、また大会総括として本特集を企画した。

本大会は、JR小倉駅近くの北九州国際会議場と西日本国際展示場 AIM3F を会場として利用し、1600名を超える参加者と約700件の発表により、過去最大規模の大会として盛況の中で終了することができた。まず、大会に参加し、議論を盛り上げていただいた参加者、発表者、ならびに多くの準備を重ね、大会運営に貢献していただいた大会委員の皆様へ感謝を申し上げます。



図1 会場として利用した北九州国際会議場

本大会も、前回までと同様に他学会の大きな大会とは異なる6月上旬に会期を設定し、発表と質疑の時間を十分に確保するスタイルの維持に努めた。毎日のように人工知能に関わるニュースが流れる何回目かの人工知能ブームの中、発表数は前回から約70件増となった。特

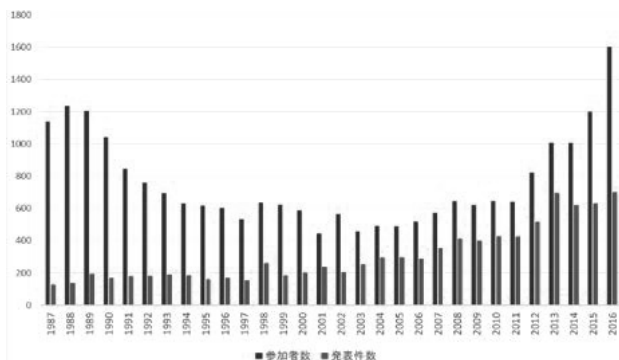


図2 全国大会の参加者数と発表件数の推移

にインタラクティブ発表が大きく増加したため、前回まで1回で実施していたセッションを2回に分けて実施した。こうした発表数増に伴う変更や特別セッションなどの追加が大会直前まで続いたが、会議室利用の調整やスタッフ配置に柔軟な変更に対応していただいた現地運営委員や会場関係者に感謝の意を示したい。

また今回の参加者数は前回2015年度の約1200名から、約400名増となった。特に当日参加申込の増加が顕著であったため、初日午前中は受付作業が間に合わず長蛇の列を発生させてしまった。ご不便をおかけしてしまったことをここでお詫びしたい。

本大会では基調講演として九州大学の横尾 真先生に「人工知能とゲーム理論」と題して、計算幾何学とミクロ経済学の境界に関してわかりやすい例を用いてご講演いただいた。特別講演では(株)ソニーコンピュータサイエンス研究所の北野宏明氏に「グランドチャレンジの彼方へ」と題してロボカップなど多くのグランドチャレンジに関する構想と実行戦略についてご講演いただいた。招待講演では株式会社コロプラの馬場功淳氏にコロプラの歴史と将来ビジョンについてご講演いただき、後半の学生を交えたパネルディスカッションでは、ゲームの過去と未来や起業に関する想いなどについて議論が行われた。

また今年もさまざまな企画セッションが行われた。オープニングセッションでは、会長の松原 仁氏から人工知能と学会を取り巻く最新状況に関する講演と、2017年に名古屋で世界大会 RoboCup 2017 が開催されるロボカップ委員会関係者からロボカップの過去と現在と未来に関する特別講演が行われた。また昨年に続き開催された公開討論「人工知能学会倫理委員会」では、本学会倫理委員会メンバから人工知能研究者の倫理綱領(案)が発表され、多くのメディアに取り上げていただいた。また新たな試みとして、女性研究者のキャリアと環境を考えるセッションを企画し実施した。

特別セッション「人工知能研究拠点 AIP の設立」では2016年度発足の理化学研究所革新知能統合研究センターの方向性に関する講演と議論が行われた。「JSTにおける先導的 AI 関連プロジェクトの紹介」では科学技術振興機構(JST)における先導的 AI 関連プロジェクト「超スマート社会を牽引する CREST・さきがけ・RISTEX 新領域研究」について概要が紹介された。「JSAI 2016 併設ワークショップ: 機械学習の社会実装に向け

て」では深層学習のビジネス的な価値と社会における利用シナリオについて議論が行われた。

公開イベント「コンピュータ囲碁は人間に迫れるか」では、九州ゆかりのプロ棋士武宮陽光六段にコンピュータ囲碁プログラム Zen がハンディ戦で挑戦し勝利した。一般来場者を多くの集めた大変盛況なイベントであった。各詳細は次ページ以降に続く各担当からの報告を参照されたい。

最後に、本大会の交流会は会場近くのリーガロイヤルホテル小倉で開催し、北九州の食材を使った料理と、地元の小倉祇園太鼓を余興として用意した。約 770 名に参加していただき、盛会のうちに終了することができた。

来年 2017 年度の全国大会は 5 月 23 日（火）から 26 日（金）に愛知県名古屋市で開催する。ぜひ来年も多くの皆様に全国大会に参加していただき、大会を盛り上げていただければ幸いである。